

海水を淡水化 世界向け展開

ワイズ、東南ア中心に

持ち運びが可能な浄水器などの製造・販売を手掛けているワイズグローバルビジョン(うるま市、柳瀬良奎社長)は、沖縄振興開発金融公庫から資本性ローン2千万円の融資を受け、水質環境の悪い東南アジアを中心に海外展開を本格化させる。柳瀬社長は「自社の

製品を通じて、インフラが整っていないアジアの水問題を解決する」と展望を語った。

同社が開発した主力商品の小型海水淡水化装置「オーシャンピュア」は1時間に40リットルの海水を淡水化でき、現在、国内のほかフィリピンやインドネシアなどで販売している。

今後3年間で飲料水販売所「MYZ(ミズ)ステーション」を海外300カ所に設置する計画を立てている。

同社の淡水化装置は海水をナノレベルで濾過する「逆浸透膜」フィルターを使うことで、塩分濃度0%かつ、ウイルスや病原菌がない真水をつくることができ、県内でも漁船などに使用されている。